

令和3年度企画展

吉村昭と

く未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声く

東日本大震災

令和3年

10月16日(土)~12月15日(水)

【開館時間】 9時30分~20時30分

【休館日】 10月21日(木)、11月18日(木)、12月3日(金)

【入館料】 無料

【会場】 ゆいの森あらかわ 3階 企画展示室

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により、開催日時等を変更する可能性があります。

吉村昭記念文学館

企画展公式サイト



撮影 小澤忠恭

吉村昭と

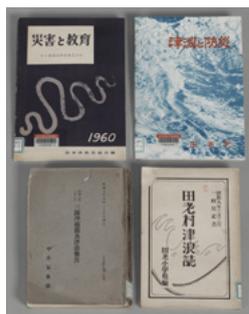
〜未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声〜

東日本大震災

平成23年(2011)3月11日の東日本大震災発生は、吉村昭がこの世を去ってから五年後のことでした。未曾有の災害に直面した時、吉村の著作『三陸海岸大津波』と『関東大震災』は広く再読され、増刷を重ねました。体験者への綿密な取材と、膨大な文献資料の調査を行い、失われた多くの尊い命を見つめて執筆されたこれらの作品は、過去の災害に学ぶべき教訓を後世に伝え、語り継ぐことの大切さを問いかけています。本展では、東日本大震災から十年を経た今、改めて、この二作を中心とする資料を取り上げ、吉村作品が伝える災害の実態と人間の営み、防災に関するメッセージをたどりま

吉村は、昭和45年(1970)に発表した『海の壁』(中公新書、同59年改題『三陸海岸大津波』(中公文庫)で、明治29年、昭和8年、同35年に三陸沿岸を襲った大津波の実態を記しました。また、関東大震災を体験した両親の話を書いて育った吉村は、大地震の実態と非常時における人間の本質を探究し、『関東大震災』(昭和48年文藝春秋)を著しました。

今回の展示では、証言を書き留めた取材ノートや自筆講演メモ、参考文献、初公開の旧蔵書などを紹介し、作品成立の過程を追います。また、津村節子『三陸の海』(平成25年講談社)をはじめ、吉村の著作を踏まえた作家たちの作品や、田野畑村、宮古市田老、釜石市、石巻市など、吉村・津村夫妻とゆかりの深い三陸沿岸の地から届いた言葉や資料を紹介します。



1. (上)津波に関する自筆取材ノート(下)『海の壁』(昭和45年 中公新書)『三陸海岸大津波』(昭和59年 中公文庫、平成16年 文春文庫) 津村節子氏寄託資料

2. (上)自筆メモ「関東大震災」「関東大震災と乗物」自筆取材ノート「関東大震災メモ」(下)『関東大震災』(昭和48年 文藝春秋、昭和52年・平成16年 文春文庫) 津村節子氏寄託資料

3. (上)『災害と教育 チリ津波は何を教えたか』(岩手県教員組合編 昭和35年)、『津波と防災』(昭和44年 田老町役場総務課)、(下)『昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告』(昭和8年 中央気象台)、『田老村津浪誌』(田老尋常高等小学校編 昭和9年) 岩手県立図書館蔵 「三陸海岸大津波」執筆時の取材が発見し、調査した資料。

4. 多十郎の上着 奥松島縄文村歴史資料館蔵 「若宮丸」(石巻)船乗りの多十郎(十太郎)が、江戸時代に漂着したロシアで皇帝から授かり、持ち帰ったとされる衣服。吉村が資料の保存を助言したことで、宮城県東松島市の指定有形文化財となり、東日本大震災の津波被害から守られた。

関連イベント

1 映像配信 朗読とトーク ～赤江珠緒が読む、吉村昭～

【出演】赤江珠緒氏(フリーアナウンサー・ラジオパーソナリティ)

吉村作品を愛読する赤江珠緒氏による朗読です。吉村作品の魅力も語っていただきます。

【朗読作品】

- ①『三陸海岸大津波』(平成16年 文春文庫)より。
- ②『梅の蕾』(『遠い幻影』平成12年 文春文庫)より。



赤江珠緒氏



荒川区公式チャンネルで10月16日から常時配信!

赤江珠緒が読む、吉村昭

検索

2 上映会 村田朋泰 人形アニメーションの世界

【日時】10月31日(日)13時30分開場、14時開始

【会場】ゆいの森あらかわ1階 ゆいの森ホール

生まれ育った荒川区で創作活動を通じ、吉村昭の影響を最も受けたと語る村田朋泰氏(アニメーション作家)。東日本大震災と向き合い制作された作品や、NHKアプチ・アニメ「森のレシオ」など、お子様も楽しめる人形アニメーションを上映します。約90分。休憩あり。

【定員50名】先着順。事前申し込み不要。直接、会場にお越しください。

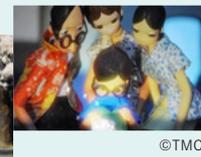
展示会期中のみ、館内でも常時上映しています。

- (上)「松が枝を結び」(2017年)東日本大震災をきっかけに構想。
- (下)「家族デッキ」(2007年)荒川区にあった理容店をモデルに制作。



©TMC

©TMC



©TMC

展示図録

【販売場所】ゆいの森あらかわ1階総合カウンター。郵送販売も承ります。詳しくはお問い合わせください。

- B5判・48ページ オールカラー 420円(税込) 取材ノートや初公開資料を掲載。
- 特別寄稿
吉村司氏(吉村昭・津村節子氏長男)、赤江珠緒氏(フリーアナウンサー・ラジオパーソナリティ)、荒谷栄子氏(宮古市教育委員)、大島幹雄氏(ノンフィクション作家・石巻若宮丸漂流氏の会事務局長)、佐伯一麦氏(小説家・仙台文学館館長)、将基面誠氏(元田野畑村医)、鈴木るか氏(高校生作家)、村田朋泰氏(アニメーション作家)、森健氏(ジャーナリスト)、ヤマザキマリ氏(漫画家・随筆家)
- メッセージ
菊池のどか氏(株式会社8kurasu防災教育推進担当)



吉村昭記念文学館

〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目50番1号
(ゆいの森あらかわ内)

TEL 03-3891-4349 Fax 03-3802-4350
https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp/
都電荒川線(東京さくらトラム)荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)下車徒歩1分
東京メトロ千代田線・京成線 町屋駅下車徒歩8分
コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ下車(土日祝のみ)

【ご来館の皆様へのお願い】

- 体調がすぐれない場合はご来館をお控えください。
- 館内ではマスクの着用、手指の消毒をお願いします。